



Ten colors ～自分色～

令和7年4月3日 発行 NO.1

認定こども園にちなん十色

TEL (0859) -82-0626 FAX (0859) -82-0520

Mail address s 0310@town.nichinan.lg.jp



にちなん十色 見守る保育の木

ご入園、ご進級、おめでとうございます。4月2日に新しいお友達を迎え、対面式を行いました。

にちなん十色は6名の新入園児を迎え53名、山の上分園は1名の新入園児を迎え8名、石見分園は5名、町内全園児66名でスタートします。

今年度も、「見守る保育」に取り組むことで「非認知能力」の育成に力を入れていきます。

また、交流保育（4.5歳児）も年間計画で実施し、3園で多様な体験ができるように計画していきます。

保育の取り組みを、保護者の皆様に、わかりやすく伝えられるように心掛けていきたいと思ひます。

1年間、よろしくお願いいたします。

「見守る保育」の取り組みを10の目標にしました。①の土台から⑩に向けて充実させていきたいと思ひます。

未来を創る

⑩感謝	一人ひとりがかけがえない「存在」であり、大切な「命」に気づき、心が動いたときに、素直な言動に移せること
⑨共存共栄	・誰一人取り残されず、ともに助け合って生き、それぞれの持つ力をかけ合わせながら、変化を起こす力を持つ主体 ・共主体
⑧コミュニケーション 社会性	・子ども同士の関わりを大切にする ・場の共有 ・気持ちの共有 ・臨機応変に対応する力 ・考える力を育てる質問力 ・メタ認知 ・批判的思考
⑥自己肯定感 自己存在感	・「できた!」を増やすためにスモールステップ支援（成功体験と失敗体験） ・お互いの得意分野・苦手分野を認め合う（十人十色） ・役割分担 ・お互いの保育を認め合い、伝えあい、語り合う
⑦興味・関心・意欲	・自分や他人の存在がわかる ・五感を磨く ・子どものつぶやき・気づき・発見を見逃さない ・好きなことをとことん遊びこめる時間設定 ・「やってみよう!」を作る目標設定
⑤子ども主体	・自己選択 子ども参画 ・子ども同士で教え合う（モデリング） ・試行錯誤し実行する力 ・子どもを客観的に観察できる心の余裕をもつ
④個別最適な保育	・異年齢保育 ・子どもを観察し、理解する（多様な支援） ・こども真ん中社会（子ども・保育者・保護者・地域みんながワクワク） ・チーム保育（保育者の得意分野を認め合い・発揮しあう） ・個々の発達に合わせた支援 ・その子らしさを引き出す
③身体づくり	・しなやかな身体をつくる（自分を知る・身体の使い方・身体の制御力） ・リトミック活動 ・失敗を笑い飛ばせる身体作り ・原始反射、感覚統合の遊び
②環境設定	・子どもが選べる環境（コーナー・ゾーン保育） ・過保護・過干渉にならない言動 ・安心して共同生活できる場 ・子どもの発達を観察し、適切な援助を行う保育（見守り保育）
①安心感	・アタッチメントの形成 ・子どもをまるごと信じる ・命の大切さを伝える ・一人ひとりの人権を大切に（バイアスを取り除く）

先日の日本海新聞に、3回シリーズで『学びの未来～鳥取の新たな教育～』が掲載されていました。第二回目は、複数教員で児童見守る 細やか指導、双方に効果というタイトルでした。

学級担任を一人に固定せず、複数の教員で複数のクラスを担当する「チーム担任制」。児童一人の長所や課題を複数の目で把握することで、個々に合わせた細やかな指導・支援ができる。教員側も業務の分担や、それぞれの長所を生かした指導力の向上、指導技術の継承ができるなど、教える側、教わる側の双方にとって良い効果が期待される...と書いてありました。

こども園に移行して3年目のにちなん十色。「チーム保育」も特徴の一つとして、子どもの主体性を育む保育に取り組んでいます。複数人で子どもを見守る体制づくりは、大人同士の子ども理解に繋がり、確実に個々の成長発達の促進に繋がっていると感じています。多くの人に見守られている環境は、子どもたちにとって安心感の土台となり、自分から“やってみたい”といった自発的な姿に結びついているようです。相乗効果として感じていることは、大人も子どもも、学びへの意欲が積極的な言動に見られていることです。

「チーム保育からチームにちなん十色」へ。これから一年間保護者の皆さんと一緒に繋がって、育ちあって、学びの未来を創造できる良きチームとなっていけますよう、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。